

中央環状線山手トンネル (③渋谷線～④新宿線) の開通による効果について

整備効果 その1

所要時間の短縮

- 中央環状線山手トンネル(③渋谷線～④新宿線)の開通後に中央環状線をご利用された場合、今までよりも早く目的地へ到着できるようになります。
- 東名(用賀)から東北道(川口)までの、渋滞ピーク時(平日11時台)の所要時間が、今までより18分短縮されます。また、東名(用賀)から常磐道(三郷)についても、15分短縮されます。
- 山手トンネルを経由するルートは、都心環状線を経由するルートに比べ渋滞が少ないため、より安全で、より快適に首都高を利用することができます。

③渋谷線～④新宿線開通前



東名(用賀)



東北道(川口)

18分短縮

開通後は
都心環状線経由でも
6分短縮に。

③渋谷線～④新宿線開通後



③渋谷線～④新宿線開通前



東名(用賀)



常磐道(三郷)

15分短縮

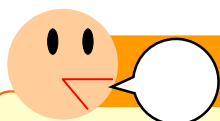
開通後は
都心環状線経由でも
6分短縮に。

③渋谷線～④新宿線開通後



※1 都心環状線の走行距離、所要時間については、内回りと外回りの平均値

※2 データは、開通前(平成20年)と開通後予測(平成22年)の平日11時台の比較



お客様の声 ※3

- 混雑している都心を通らずに用賀から目的地にいけるので、関越道・東北道が利用しやすくなりそう。関越道を使って軽井沢に行きたいです。(東京都女性)
- 今回の開通により、都心の交通の流れがよくなることで、特にトラックなどの大型車は便利になりそう。(東京都男性)

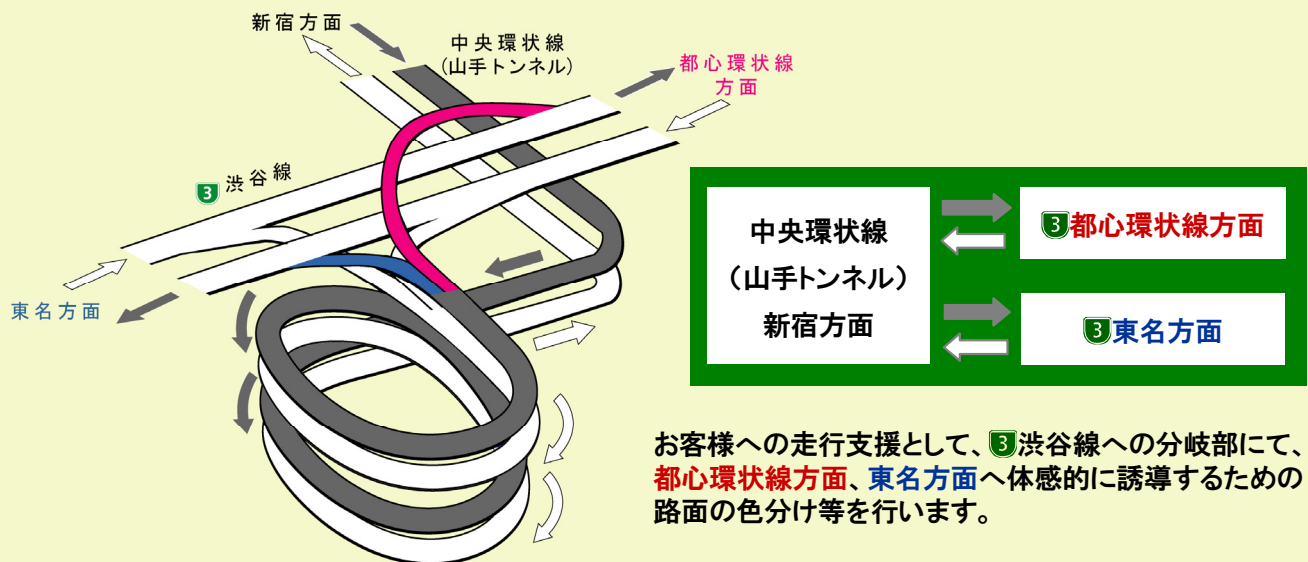
※3 当社調べ:開通前アンケート

整備効果 その2

交通状況に合わせた経路選択

- 今回の開通で、大橋ジャンクションにより、中央環状線山手トンネルが③渋谷線の**都心環状線方面**、**東名方面**の両方向につながります。
- **都心環状線方面**につながることで、その時々交通状況に合わせて渋滞を迂回する経路を選択することができます。これにより、所要時間の信頼性が改善され、安全性も向上し、物流や旅客、緊急輸送などの機能確保にも貢献します。

大橋ジャンクション ルートイメージ



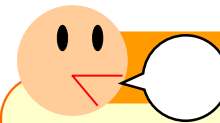
- 例えば、中央道～羽田空港をご利用される際、西新宿ジャンクション～三宅坂ジャンクションの間で渋滞等があった場合、大橋ジャンクションを使って③渋谷線を利用するルートに迂回することができるようになります。

■ 中央道～羽田空港の場合



- また、「さいたま新都心」から「六本木」を訪れる場合、**⑤池袋線**を利用するルートと中央環状線山手トンネルを利用するルートのどちらも選択が可能となります。
 なお、中央環状線山手トンネルを利用するルートの場合、所要時間が今までより10分(60分→50分)^{※4}短縮されます。

※4 データは、開通前(平成20年)と開通後予測(平成22年)の平日11時台の比較



お客様の声 ^{※5}

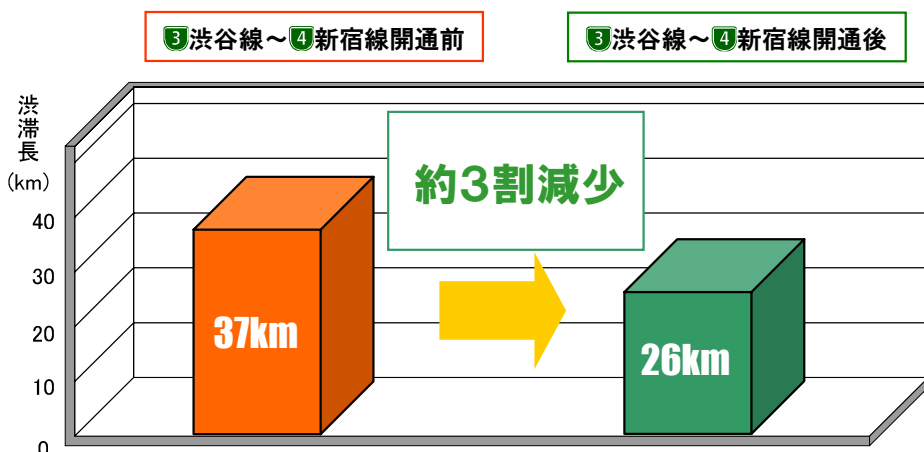
- **仕事やプライベートで渋谷の周辺に行く機会が多いので、開通に大きく期待しています。**
 (埼玉県男性)

※5 当社調べ:開通前アンケート

整備効果 その3

交通集中渋滞の緩和

- 首都高における慢性的な渋滞は、放射線から他の放射線に向かう交通も都心環状線を利用するネットワーク形状であることが、原因の一つとなっています。
- 平成19年12月に開通した中央環状線山手トンネル(④新宿線～⑤池袋線)により渋滞は減少しましたが、ネットワークとしては完成途上であるため、都心環状線に交通が集中する状態が続いています。
- 今回の開通により、都心環状線に目的地をもたない交通の分散が促進し、首都高全体の交通の流れがよくなることで、更なる渋滞緩和につながり、開通前に比べ、**渋滞ピーク時(平日11時台)の渋滞長^{※6}が約3割減少**します。

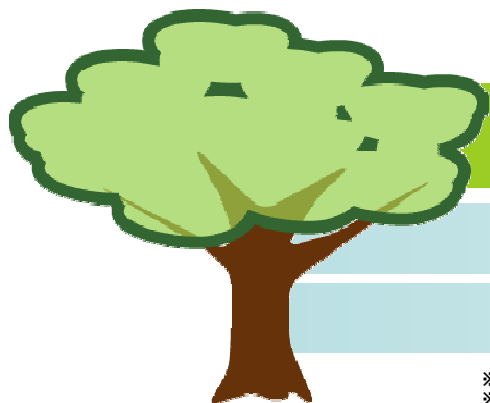


※6 渋滞長とは20km/h以下の区間の長さのことをいう。

※7 データは、東京線における渋滞ピーク時(平日11時台)の、開通前(平成20年)と開通後予測(平成22年)の比較

環境の改善

- 中央環状線山手トンネル(3 渋谷線～4 新宿線)の開通により、首都高や一般道路の交通の流れがスムーズになることで、一般道路も含め、年間約3万4千トンの二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らすことができます。



CO₂ 約3万4千ト/年削減

二酸化炭素

代々木公園約60個分の照葉樹林が年間に吸収する量に相当※8

NO_x 約28トン/年削減

窒素酸化物

SPM 約3トン/年削減

浮遊粒子状物質

※8 「土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイダンス(優良手法指針)」をもとに面積を算出。

※9 首都圏(1都3県)の高速・一般道路を対象とした試算値

- 大橋「グリーン」ジャンクションでは、地球温暖化防止やヒートアイランド対策、生物多様性の確保の観点から、平成24年度のまち開きに向かって、3つの緑「街並みの緑」「公園の緑」「自然再生の緑」の形成に積極的に取り組んでいます。これにより、周辺の緑化と連係したエコロジカル・ネットワークの形成に寄与し、都市部における緑化の創出に貢献します。

